

会議記録（要旨）

会議名	令和6年度 第1回杉並区子ども読書活動推進懇談会
日時	令和6年7月12日（金） 午後5時30分～7時30分
場所	中央図書館 地下ホール
出席者	前田委員、升水委員、澁川委員、遠藤委員、中田委員、鈴木委員、伊藤委員 出保中央図書館長、奈良学校図書館支援担当係長、寺崎資料相談係長、辻事業係長、佐川企画運営担当係長、早川企画運営係主査、企画運営係職員
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度 杉並区子ども読書活動推進懇談会名簿 ○令和6年度第1回子ども読書活動推進懇談会 席次表 ○【資料1】令和5年度第1四半期～第4四半期 子ども読書活動推進進捗管理票 ○【資料2】令和6年度第1四半期子ども読書活動推進進捗管理票 ○【資料3】杉並区子ども読書活動推進計画（令和6年度～8年度） ○【資料4】令和6年度子ども読書活動推進懇談会の懇談テーマについて ○夏休み子ども向け催し情報カレンダー2024
<p>1. 開会</p> <p>2. 中央図書館長 挨拶</p> <p>3. 委員自己紹介</p> <p>委員：この懇談会は何かを決める会ではなく、「懇談」が目的である。一人ひとりの実感をベースに知恵を絞り合う、勉強会のような側面もある。ここでの学び合いが現場に反映される。子ども読書について、見方、考え方を培う場になるとよい。</p> <p>4. 令和5年度第4四半期「杉並区子ども読書活動推進計画」進捗状況報告(資料1)</p> <p>〈家庭・地域等における読書活動の推移〉</p> <p>事務局：「プレパパ・プレママへの読み聞かせ講座」では、子育てプラザにて赤ちゃんへの読み聞かせの大切さをお話するとともに、絵本の読み聞かせを行った。第4四半期では2回の開催となったが、令和6年度も活動を広めていく予定である。</p> <p>「図書館等における地域の施設への支援の充実」については、保育園での出張おはなし会、児童館の事業への参加などが活発に行われている。下井草図書館では下井草保育園の園児を図書館に招待する取り組みも行った。第2四半期でもお伝えした、永福図書館の子ども食堂への出張おはなし会も引き続き好評である。</p> <p>「自主的に地域で活動する人々への支援」では、各館で毎月行っている定例的なおはなし会に加え、ボランティアとの協働し、おはなし会や工作会を頻繁に行った。高井戸図書館では多言語おはなし会を定期的で開催し、他国の言語だけではなく文化などに触れる機会を作っている。</p> <p>〈学校における読書活動の推移〉</p> <p>学校図書館支援担当係長：学校では、広い意味での読書として探究学習や情報活用能力の育成</p>	

を行っている。「学校図書館サポートデスクによる支援」では、教員向け、学校司書向けの研修を行うほか、学校図書館活用実践校事業も行っている。

「特別な支援を必要とする子どもへの支援」では、済美養護学校の図書登録に協力した。

また、「地域・ボランティアとの連携」では、ボランティアが読み聞かせや書架整理、装飾などの作業をおこなった。

「広報活動」では、児童生徒向けだけでなく、教職員向けのおたよりも発行している。

令和6年度は松溪中学校が文部科学省の「子供読書活動優秀実践校」として表彰されたが、令和6年度も富士見丘小学校が表彰された。

〈図書館等における読書活動の推移〉

事務局：「資料の整備・充実」について、第4四半期では阿佐谷地域区民センター協議会主催の「あさがや区民センターまつり」のリサイクル市に成田・阿佐谷・下井草図書館の3館合同で参加した。午前10時に始まり、午後1時には絵本がなくなるほどの大盛況だった。

「特別な配慮を必要とする子どもの読書環境の整備・充実」では、下井草図書館がインセンティブ事業としてボランティア団体と協働で布絵本を整備し、点字絵本も含めて「さわる絵本コーナー」を設置した。

「乳幼児への支援の充実」の「子どもと保護者が一緒に楽しむ事業の実施」では、各館でおはなし会やあかちゃんおはなし会などの定例のおはなし会を継続して行った。各館で工夫を凝らしコンサートや工作会等も行っている。

「小・中学生を対象とする事業の実施」の「多様な読書の機会の提供」については、学校の冬休み、春休みにもスタンプラリーを行っている館が多く、利用者増加につながっている。西荻図書館では恒例の荻窪中学校図書委員数名によるおはなし会を実施し、子ども主体のイベントも増えてきている。

また、「本の帯アイデア賞」については、1月に表彰式が行われ、アイデア賞は小学2年生が受賞した。

「中学生・高校生世代に向けた読書活動の推進」の「YAコーナーの充実」では、今川図書館に設置している「YAみんなの掲示板」について、テーマ設定や設置場所を変更したことにより、投稿数の顕著な上昇がみられ、高校生の利用者も少しずつ増えてきた。また、「司書教諭、学校司書等との連携による事業の実施」では、今川図書館で井草中3年生が作成した乳幼児向け布絵本を展示した。子育て世代だけでなく、多くの方が立ち止まり熱心に見ておりアンケートでも好評だった。

〈読書活動に関する情報の発信〉

事務局：読書活動に関する情報の発信の「図書館HPの活用促進」では、1年を通し、こどもページに各館から選んだ絵本リスト等を掲載した。今年度は図書館HPのリニューアルを行うため、情報発信をさらに充実していきたい。

〈読書活動を推進するための体制と関係機関の協力・連携〉

事務局：「読書活動を推進するための体制と関係機関の協力・連携」の「区に関連機関と学校との連携」では、高井戸図書館と高井戸中学校の連携が続いており、昼休みに生徒が図書館を利用するほか、授業での図書館利用も行っている。

今川図書館では近隣の視聴覚障害者支援総合センターと協働で「点字を知ろう！」のイベント

を実施した。点字図書の展示や実際に点字を打ったり、視聴覚障害者支援総合センターの方と話ししたりするワークショップを行い「読書バリアフリー」の推進と地域交流を図ることができた。ワークショップには幼児～中学生もおり、障害者の方々と共に生きる意識を持ってもらう良い機会となった。

今年度は引き続き令和5年度の課題を各館にも共有し、改善に向けて活動を行っていく。

5. 令和6年度第1四半期活動報告（資料2）

事務局：引き続き、資料2の「令和6年度の子ども読書活動」について、第1四半期の活動を図書館での事業を中心に報告する。

「家庭地域における読書活動の推進」では、区立保育園で、区内の保育園に勤務する保育士に向けた絵本の読み聞かせについての研修を、中央図書館職員が講師となって実施した。同様に、児童館の職員を対象とした読み聞かせの研修も行った。また、子ども子育てプラザや児童館への図書館員による出張おはなし会も積極的に行っている。

「図書館における読書活動の推進」では、様々な年代の併せたブックリストを作成し、対象の子どもたちの手元に届くよう配布している。方南図書館では、「幼年童話100選」として、本の展示とリストの配布を一緒に行っている。

また、第1四半期には、4月に子ども読書の日があり、6月は杉並子ども読書月間と、各館で人形劇や通常よりも演目の多いおはなし会を実施している。

これから学校の夏休みが始まるが、お配りしている「夏休み子ども向け催し情報カレンダー2024」は、区内のイベントを網羅したもので、図書館等の施設で配布するほか、学校ではタブレット端末で見てもらっている。

【質疑応答】

委員：図書館でリトミックをやるのか。

事務局：人気があり、定番のイベントになってきた。

委員：ボランティアは図書館に所属（登録）しているのか、だれでもできるのか。

事業係長：図書館で講座を行い、基礎的な知識を得てからボランティアとして活動してもらっている。おはなしのグループなどの団体に所属する場合、活動する図書館を紹介する場合がある。

委員：読み聞かせの講座は、希望者が多く、受けられない人も多かった。今後も実施してほしい。

事業係長：すでに活動している人よりも初心者を対象とした。今後ステップアップ講座も行っていきたい。

委員：リトミックなどは文庫でもやったらよいのでは。子どもの居場所として本に関わるものだけでなく、いろいろな活動ができるのではないか。

委員：文庫で行事を行うと子どもが喜ぶ。本があるところで行うことに意味があり、いろいろな活動も本に結び付けている。

委員：リトミックは保護者からの要望が高い。本と結び付けるのは難しいが、図書館にくる動機付けになるのではないか。

事業係長：本に親しむ機会が少ない人には、おもしろそうなイベントをきっかけに図書館に来てもらう。例えば、映画会にはふらっと図書館に来た人が参加することがある。本をふだん読まない子が映画会の始まる前に展示していた本を読んだ、と保護者が驚いていた

ことがあった。来月には、文庫の方に協力していただき、おはなし会や人形劇を行う予定である。

委員：2年前に杉並区に来た。計画を読んで、ここまで考えられているのに驚いた。

委員：こんなにいろいろなことをやっているのか、と思った。今川図書館でのYAコーナーの掲示板の場所の変更によって、利用が伸びたのか知りたい。また、利用者が増えた取組について、各館でその成果は共有されているのか。

事務局：今川図書館の件については、確認してまた報告したい。

各館の取組については、毎月の定例会での報告で情報収集し、よい事例は館長会などで報告してもらい、共有している。

委員：「まちライブラリー」という取組がある。さまざまな場所に本を持ち寄り、交流するもので、本のあるところに人が集まり、そして本に目がいくというしくみがよい。

6. 「杉並区子ども読書活動推進計画」の改定について(資料3)

事務局：子ども読書活動推進計画の改定については、昨年度の懇談会でもご意見をいただきながら進めてきた。このたび完成したのでご報告する。

今回の計画改定に当たって、基本的な考え方や重点的取組などについて大幅な変更はなく、今までの取組をより一層進めていくという内容になっている。

変更点としては、「学校図書館における読書活動の推進」の中の、「区立特別支援学校の学校図書館の運営支援」を新たに加えた。これは、令和7年度の途中で済美養護学校中学部が教育センター内に移転することに伴い、小学部、中学部ともに学校図書館の充実に向けた支援を行うということである。

また、昨年度の終わりに素案を確定し、3月から4月にかけて区民意見の提出手続、パブリックコメントを行った。その結果、5名の区民の方からご意見を頂いた。

主なご意見は次のとおりである。

- ・ブックスタートに続いて、1歳、2歳、3歳くらいまで一冊絵本をプレゼントしてもらえたら嬉しい。
- ・学校で昼休みにボランティアが読み聞かせ等を司書と相談し実施してはどうか。
- ・学校の読書週間に、本に出てくるメニューを給食に取り入れて図書委員が給食時間の放送で色々と解説するのはどうか。
- ・学校では、世の中の変化が激しいので、最新のアップデートされた図書に親しめるよう、蔵書の新陳代謝を進めていただきたい。
- ・自習室の席をもっと増やしていただければ学生は足を運びやすくなる。

このように、計画を読んだ感想やすでに実施している事業と同じような内容の提案などが主であったため、これによる計画の修正は行わなかった。

改定後の計画については、区のHP、図書館HPでも公開している。現在、冊子を作成しているので、完成したらお送りする。

7. 意見交換 テーマ「今年度の懇談テーマについて」

委員：この懇談会では毎回テーマを決めて、意見交換をしているが、今年度からの懇談について事務局より提案がある。

事務局：今までの懇談会では、区での取り組みで足りないところ、今後の課題をテーマに意見交換をしていたが、今年度は、区で実施している取り組みについて知っていただくこと

もに、取組がより良くなるようなアイデアなどについて意見交換や懇談をしていきたい。

まず、図書館でどのような事業をしているか、資料4の表にまとめた。

懇談会での紹介の方法については、毎回、事業を1つか2つ取り上げて、各館で実施した報告書をまとめ、懇談の材料としてお示ししたい。次回以降は、事前に資料をお渡しして当日ご意見を持ち寄っていただきたいと考えている。

本日は、多様な読書機会の提供に向けた取組みにも記載がある「おみくじ」について、報告し、懇談につなげていきたい。

資料4の2枚目から、中央図書館のおみくじ、南荻窪図書館のおみくじの紹介を掲載している。4枚目はおみくじの写真を載せた。

5枚目には、東京学芸大学の学生が作成したおみくじの写真を載せている。これは、本をすすめるのではなく、ジャンルをすすめてくれるおみくじになっている。おみくじに書かれた番号と、下段の写真にあるおみくじ番号を照らし合わせて、そのジャンルの本を読んでみよう、という趣向である。このように、同じ「おみくじ」でも色々なやり方がある。ここに、もう一工夫とか、別の図書館でこんな「本みくじ」を引いたなど、ご意見をいただきたい。

【質疑応答】

委員：おもしろい取組だと思う。自分の5歳の娘もやりたがると思った。気になったのは、このような行事のお知らせはどのようにしているのか。ひらがなだけのお知らせがあるとよい。チラシを家においておき、子どもが読んで自発的に参加したい、となるとよいと思う。絵や写真を入れた小さい子ども向けの案内があればよい。

委員：中央図書館の子どもが子どもに本をすすめるのがよい。同じくらいの年代の子どもがすすめていると読みたくなる。すすめ方が上手でなくても、おもしろい、ということだけでも読みたいと思う。また、はじめて読む子ども向けのおみくじと上級者向けに新しいジャンルの本をすすめるおみくじに分けてもよいのではないかな。

委員：子どもの本に限定するのはもったいない。大人の本（子どもの好きな鉄道関係の本や写真集など）も入れてもよいのでは。本の福袋でも同じである。

委員：乳幼児は月齢差、発達差が大きい。「バブみくじ」のような保護者向けのおみくじ（年齢別）はどうか。また、YA世代には「恋みくじ」なども考えられる。大人向けにやってもおもしろいかもしれない。絵本の表紙の絵を使ったり、子どもの心をつかむために、興味があること、好きなことを入口にするとよい。

委員：おみくじをひいた子はその本を読んでいるのか。おみくじにある本を読んだ子に何かプレゼントがあるとよい。読むととってもいいことがあるとか、「大吉」もついているとよい。おみくじの募集方法についても聞きたい。

事務局：カウンターで子どもに声かけをして、おみくじを書いてもらった。

委員：ジャンル別のガチャガチャでだれかが紹介した本のカードがひけるのはどうか。図書委員会で考えてもらうのもよいのでは。

委員：中学校の図書館では、学校司書が「本みくじ」を作っている。図書委員会の活動としても行っている。大人でも読んでみようと思うし、プレゼントをもらうような楽しみがある。中学生対象の場合、ジャンルをしぼるとよい。「落ち込んでいるときに読む本」など、「本菓」「読み菓」というのもよい。おみくじの魔法の力、子どもがおみくじを作る段階から関われるのがよい。

事務局：自分で書いたおみくじを自分がひいた、という子もいたが、喜んでいた。

委員：中学生の場合、おみくじをひいても本を読むところまではいかない。そのまま本を手渡せるとよい。手作り感がよいが、本格的な（本物らしい）ものを作ってみてはどうか。

事務局：例が少なかったが、紹介できてよかった。やり方がいろいろあるということを地域図書館にも伝えていきたい。おみくじをひくだけではなく、読んでもらうための取組も必要であると感じた。

次回取り上げる事業について、図書館クイズを考えているがいかがか。

委員：学校で行っているもの、図書館で行っているものを例として出すのはどうか。

8. その他自由討議

委員：次回には、お互いに学ぶための資料を持ち寄ってほしい。自身に関わる事業のアピールでもよい。

委員：完成された事業よりは、一から提案したい。

委員：提案については昨年度に取り組んだ。

委員：高校生が書店に選書に行く取組に興味をもった。タブレット端末上に子どもたちが匿名ですすめる本を見られる場所があるとよい。

委員：そのような取組があれば、次回以降紹介してほしい。

9. 事務連絡（次回開催予定）

事務局：令和6年度第2回懇談会は10月または11月に開催したい。次回はできれば夕方からではなく、日中に開催したいと考えている。日程調整については、後日またお願いしたい。